

特徴的なデジタルサイネージ空間を活用した「インタラクティブコンテンツ・コンテスト」

特徴的なデジタルサイネージ空間

札幌駅前通地下歩行空間（チ・カ・ホ）は、多くの市民の移動を支える巨大な地下通路であるとともに、最先端のサービスが集積する「ICT活用のショーケース」と位置付けられており、イベント等に活用可能な広場と様々なデジタルサイネージが各所に配置されています。

その中でも特徴的なのが、60インチのディスプレイ計12枚で構成される特殊なサイネージを備えた「北2条広場」（通称「Sapporo*north2」です。）

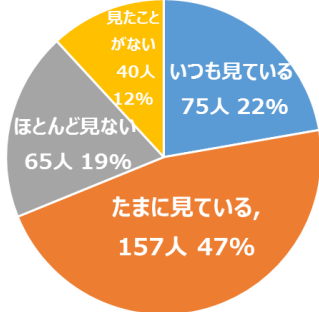
このサイネージには、タッチセンサー・音検知センサー・人感センサーが備わっており、単純な映像配信にとどまらず、インタラクティブなコンテンツが配信可能となっています。



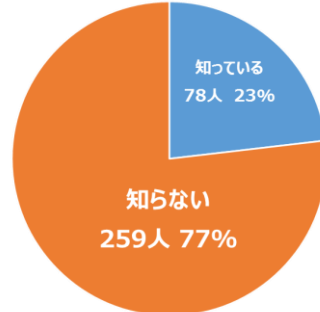
チ・カ・ホの課題感

チ・カ・ホは、上記のように非常に特徴的な空間ですが、一方で歩行者を対象としたアンケートでは、下記のような結果が出ています。

Q：チ・カ・ホのビジョン放映は、ご覧になっていますか？



Q：チ・カ・ホが最先端のサービスを集積する「ICT活用のショーケース」として位置付けられていることを知っていますか？



この結果から、せっかく有用な空間やサイネージがあるにもかかわらず、恒常的にサイネージを見ている人は2割程度であることから**コンテンツの訴求力不足**が推測され、また、**チ・カ・ホのコンセプトについての認知度も低い**ことがわかります。

アイデア：「インタラクティブコンテンツ・コンテスト」



上記のような課題を踏まえ、本アイデアのメンバーが**札幌市やその他市内関係団体と連携・協力**し、Sapporo*north2を舞台として、「**思わず近づいて、動かしたくなるサイネージ**」をテーマとしたインタラクティブコンテンツのアイデアを競うコンテストを開催します。

一次審査ではアイデアのみの審査、二次審査では実際に開発まで行うこととし、最優秀作品の選考に当たっては、主観的な審査だけでなく**人感センサーを利用して立ち止まる人の人数も選考基準の1つにします**。

二次審査で開発されたコンテストは、コンテスト後も一定頻度で継続配信し、最優秀作品には賞金も授与します。

